

試料・情報利用研究計画書(概要)					
審査委員会 受付番号	2026-3002	利用形態	共同研究		
研究題目	超高齢社会における運動器老化連鎖の説明可能AI予測基盤の構築			研究期間	研究実施許可日～2029年3月31日
代表研究機関	岩手医科大学(医学部整形外科学講座・いわて東北メディカル・メガバンク機構)	責任者 氏名・職	角谷 賢一郎		教授
分担研究機関	該当なし(単施設研究)		責任者 氏名・職	該当なし	
研究目的と意義	岩手県内の地域住民コホートの既存情報を用い、歩行機能低下、フレイル、骨折、要介護化の発生・進行と段階間移行を予測する説明可能AIモデルを構築する。生活習慣、身体機能、健診・血液検査、医科レセプト、介護保険等の情報から関連因子を明らかにし、将来のリスク層別化と予防介入の基盤とする。				
研究計画概要	単施設・後ろ向き縦断観察研究。IMMが岩手県内で2013年9月～2016年3月に募集した地域住民コHORT参加者を母集団(最大約32,315人、年齢による除外なし)とする。研究利用への同意・オプトアウトを確認後、既存情報を研究用IDで連結する。歩行機能低下、フレイル、骨折、要介護化を個別に評価し、統計モデル・機械学習モデルによる予測、多状態モデルによる段階間移行解析、SHAPによる寄与因子の可視化を行う。対象情報は2026年3月31日までにIMMが保有し利用許可を得たもの。				
利用試料・情報	試料は利用しない。IMMが保有する岩手県内の地域住民コホートの基本情報、調査票、来所調査・健診、血液検査、追跡調査、医科レセプト、介護保険および死亡情報。氏名等を含まない研究用ID付き解析用データを利用する。				
期待される成果	各アウトカムおよび段階間移行の予測性能と関連因子を明らかにし、地域住民の運動器老化リスクの層別化と将来の予防策の検討に資する知見を得る。成果は学会・学術雑誌等で公表する。				
倫理審査等の経過	2026年10月6日 岩手医科大学倫理審査委員会承認(研究実施許可日2026年10月13日)				
倫理面、セキュリ ティー面の配慮	既存情報のみを用い、新たな侵襲・介入は行わない。IMMの公開ページで研究情報を示し、利用拒否の機会を保障する。IMMが直接識別情報を除き研究用IDを付与し、対応表はIMM内で分離管理する。解析用データは学内のアクセス制御された端末・サーバ等で権限を限定して管理し、外部商用クラウドへ保存しない。				
その他特記事項	宮城県内で募集された東北大学のコHORT情報は利用しない。外部機関への情報提供および試料利用は行わない。				
	*公開日:2026年10月15日				